



TITLE:

京大東アジアセンターニューズレター 第565号

AUTHOR(S):

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター

CITATION:

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター. 京大東アジアセンターニューズレター 第565号. 京大東アジアセンターニューズレター 2015, 565

ISSUE DATE:

2015-04-13

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/197493>

RIGHT:

2015 年 4 月 13 日発行 第 565 号

CONTENTS

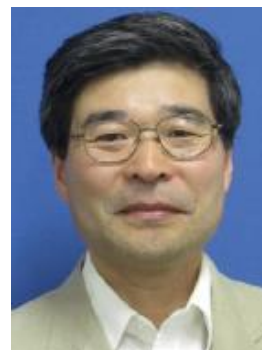
東アジア経済研究センター長就任のご挨拶	2
東アジア経済研究センター長	2
中国経済研究会のお知らせ	3
読後雑感：2015 年 第 9 回	4
上海街角インタビュー ⑦	11
あるエンジニアの客死	14
【中国経済最新統計】	17



東アジア経済研究センター長就任のご挨拶

東アジア経済研究センター長
宇仁宏幸

2015年4月1日に東アジア経済研究センター長に選任されました宇仁宏幸(うにひろゆき)と申します。本センターの活動の発展に向けてせいいっぱい努力したいと考えていますので、ご協力、ご支援よろしくお願い申し上げます。



わたし自身の専門は経済理論(社会経済学)で、多岐にわたるテーマを研究しています。東アジアに関連する研究としては、2014年にわたしを含む4名の共編著で『転換期のアジア資本主義』(藤原書店)を刊行しました。この本の執筆に際しては、本センター協力が深く関わった大森経徳/板東慧/小島正憲/川西重忠編著『激動するアジアを往く』を大いに参照させていただきました。そのとき、本センターがこれまで築き上げてきた社会とのネットワークは、有益で貴重なものだと思いをもちました。いうまでもなく、本センターの活動は、ご支援をいただいている多くの支援会会員の方々によって支えられています。本センターの研究成果が、支援会会員の方々をはじめ、広く社会に役立つようにするために、尽力したいと考えています。

なお副センター長には、劉徳強教授が就任されました。劉教授はこのニュースレターの編集責任者も務めます。

中国経済研究会のお知らせ

2015 年度第 1 回（通算第 47 回）の中国経済研究会は下記の要領で開催することになりましたので、ご案内いたします。大勢の方のご参加をお待ちしております。

記

時 間：2015 年 4 月 24 日（金） 16:30—18:00

場 所：京都大学吉田キャンパス・法経済学部東館 B1 みずほホール AB

報告①：テーマ：「中国の所得分配に関する研究」

報告者： 岳希明（中国人民大学財経金融学院教授）

報告②：テーマ：「中国高等教育体制の改革について」

報告者： 張東剛（中国南開大学教授、中国教育部社会科学司司長）

注：本研究会は原則として授業期間中の毎月第 3 火曜日に行いますが、講師の都合等により変更する場合があります。2015 年度における開催(予定)日は以下の通りです。

前期：4月24日（金）、5月19日（火）、6月13日（土）、7月21日(火)

後期：10月20日（火）、11月17日（火）、12月15（火）、1月19日（火）

（この研究会に関するお問い合わせは劉徳強(liu@econ.kyoto-u.ac.jp)までお願いします。なお、研究会終了後、有志による懇親会が予定されています。）



読後雑感：2015 年 第 9 回

13. APR. 15

アジア・アパレルものづくりネットワーク代表理事

株式会社小島衣料オーナー

東アジアセンター外部研究員

小島正憲

1. 「解放老人」
2. 「認知症にならない！ “もの忘れ外来” 徹底ガイド」
3. 「遺品整理士という仕事」
4. 「幸せな死のために一刻も早くあなたにお伝えしたいこと」
5. 「寂しさの力」
6. 「家族という病」

1. 「解放老人」 野村進著 講談社 2015 年 3 月 10 日

副題：「認知症の豊かな体験世界」

帯の言葉：「認知症を“救い”の視点から見直す」

本書は野村氏が、足かけ5年にわたって、山形県南陽市にある重度認知症治療病棟での老人の日常生活取材したものである。本書で野村氏は、重度認知症の老人たちのすさまじい実態をあますところなく描き出している。そして野村氏は「あとがき」で、「いまさら言うまでもないが、認知症に関する情報は、マスメディアにあふれかえっている」、「そこから浮かび上がるのは、私たちが思い描く、一片の救いもない認知症のイメージである。ただただ重く、暗く、絶望的で、まるで厄介者のような患者像である。重度認知症患者ともなればなおさらであろう」と書き、「私には、重い認知症のお年寄りたちが、断崖絶壁の上に立たされている人々のように見えるときがある。眼下に広がるのは、ただ底なしの闇ばかり。その心細さを思えば、身近な他人を肉親と取り違え、すがりつきたくなる気持ちを誰が笑えようか」と、自らの心情を吐露している。

野村氏は、「末期がん患者を痛みから遠ざけ、死期間近の人に恐怖や苦痛をほとんど感じさせない認知症は、新たな可能性を秘めた“救い”という視点から見直せるかもしれない。それによって、死こそ救いとみなしてきた、いや、もっとはっきり言えば、死にしか救いはないと絶望してきた従来の敗北的な認知症観を根底からくつがえせるのではなかろうか」、「認知症が内包する救済の可能性に、私は懸けてみたい気さえしている」と書き、認知症に対する希望的新視点を提言している。この点は評価できる。

本書に登場する認知症の老人のほとんどが、認知症を患う前は、「人生を真面目に生き抜いた人」であり、「暖かい家庭を築きあげてきた人」、「家族も親孝行ぞろい」である。しかし認知症の進行後は、「家族に厄介者にされてしまう人」になってしまっている。野村氏は、本書でこの両面を丹念に描いている。しかし野村氏は、その中間状態をまったく書いていない。認知症とは、それが疑われてから、人格が破壊されたような状態になるまでに、かなりの経過時間がある病気である。今、もっとも問題にされなければならないのは、多くの老人たちがその中間時期を、どのように生きたのかということである。そして野村氏などの“専門家”が為さなければならないのは、その時期を利用して「死への挑戦を果敢に行った老人」のケースを見つけ出すことであり、そしてそれを「老人の生きる指針」としてモラル化、規範化、思想化、哲学化することである。今の時代にこそ、「新・檜山節考」が必要とされているのである。

2. 「認知症にならない！ “もの忘れ外来” 徹底ガイド」 奥村歩著 日本文芸社 2015年2月10日
帯の言葉：「NHK“あさイチ”、TBS テレビ“駆け込みドクター”等に出演、

もっとも著名な“もの忘れ外来”専門医による、“もの忘れ外来”ガイド決定版！」

上掲の「解放老人」を書店で探していたとき、たまたま隣にこの本があったので、手に取りパラパラとページをめくっていたら、なんとこの開業医の病院は岐阜市内であり、私の家から20分ほどの場所であった。「岐阜のような田舎にも名医がいるのか」と驚き、さっそく買って読んでみることにした。この本で奥村医師は、「3万人以上の認知症の方々の診察にあたってきた経験」から実例をたくさん示しながら、「“認知症の治療の決め手は先手必勝！”ということ。 “がん”や“脳卒中”などの他の病気と同様、認知症も早期発見・早期治療、そして予防がもっとも重要、という実にシンプルな真実にたどりついたのです」、「現在の“もの忘れ外来”は、全人的医療—特定の部位や疾患に限定せず、患者の心理や社会的側面なども含めて幅広く考慮しながら、個々人に合った総合的な疾病予防や診断・治療を行う医療のこと—を行うことによって、患者さんがいつまでも認知症にならないようにする司令塔に変貌を遂げているのです」と書いている。つまり認知症は、「早期発見し、早期治療を行えば進行を遅らせることが可能な病気である」ということである。早期発見さえすれば、現在、社会で大きな反響を呼んでいる重度認知症患者のような状態になるまでには、かなりの時間があり、その間に「死への挑戦ができる」ということである。以下に本書の要点を書き出して

おく。

- ・手術とは危険が伴う医療行為です。人様の身体にメスを入れる行為は、リスクと比較してみて勝算の方が果てしなく高くなければ行うべきではありません。
- ・日本人は理性的です。しかし、頭が良いだけに、理路整然として、曖昧なことを嫌い、融通が利かない面もあるので、白黒をつけたがる「白黒型思考（二分割思考）」に陥りやすい弱点を持ちます。極端な考えに取り憑かれる傾向があるのです。
- ・白黒思考をしてはいけないのです。そういう考え方をするよりも、大切なことは、様々な病理や環境が、現在のご本人の日常生活にどんな問題を生み出しているのかを洞察することです。その問題の陰に潜む多彩な病理を合理的に推理することが「もの忘れ外来」の使命ではないかと思います。
- ・認知予備力を強くして、認知症を予防する生活習慣の中心となるのがニューロビクス（脳の活性化）のこと。認知予備力を強くするニューロビクスは、「知的活動」「有酸素運動」「社交性」の要素がうまく重なりあっているものが最適です。
- ・「人生の目的意識が高い人は病気になりにくい」という研究結果があります。しかし「人生の目的意識」というものが、そんなに簡単に見つかるとは思えません。手っ取り早く、人生の目的意識を高めるコツは、今までやったことのないことを、勇気を持ってまずやってみることです。私たちは、まず行動を起こすことによって、意欲・意識を操ることができるのです。つまり、「やってみて考えよう」です。
- ・認知症予防食のキーワードは、「カロリー」と「G1 値」と「抗酸化物質」です。高カロリー・高脂質のみが諸悪の根源とされた時代から、健康食のあり方がパラダイムシフト（価値観の変化）を起こしています。現在、考え得る抗認知症食は、低カロリーだけでなく、G1 値が低い3大栄養素をバランスよくとることです。
- ・中高年男性のみなさん、多少煙たがられても、職場や家庭に居座り続けましょう。私のクリニックには、定年までは「バリバリの仕事人間」で、健康良好だった方が、定年後、急に「頭痛」「めまい」「もの忘れ」などの体調不良になったという方が多数、来院されています。世界中の数々の疫学調査では、退職が遅かった人やなんらかの仕事で社会と長くかかわった人の方が、認知症を含め、多くの病気の発病年齢が遅くなることを認めています。

- ・熟年離婚が話題になっています。熟年離婚した団塊の世代の亭主族を追跡調査すると、夫婦として踏みとどまっている方々と比較して、様々な病気にかかりやすくなっていることが分かりました。そして熟年離婚した亭主族は、総じて早死にであったとの身も凍るようなデータが発表されています。
- ・認知予備力は「人や社会と上手くやっていく」時に最も活性化します。そして、このエネルギーは使えば使うほど、パワーアップされる性質を持っています。人や社会と関わって、「認められた」「共感できた」「お役に立てた」と幸福感・心地よさを感じると、認知予備力は強化されます。

3. 「遺品整理士という仕事」 木村榮治著 平凡社新書 2015年3月13日

帯の言葉：「思い出、守ります」

私はこの本を読んで初めて、現代日本社会に遺品整理士という職業があり、彼らが活躍していることを知った。著者の木村氏は、2011年9月に、「一般社団法人 遺品整理士認定協会」を立ち上げ、理事長に就任し、現在までに1万人に及ぶ認定遺品整理士を誕生させているという。また遺品整理会社は、現在、全国で5千社を超えており、それらは玉石混淆の状態であるとも書いている。しかもこれからの高齢社会の到来と共に、ますます増えて行くことは間違いないだろうと予測している。まさに時代が、この職業と会社を要請していると言える。木村氏の発想はおもしろい。

本書で木村氏は、良い業者の見分け方を書いている。以下にそれを紹介しておく。

- ・ホームページの内容は分かりやすいか。
- ・電話対応が丁寧か。
- ・遺族への思いやりを言葉の端に感じるか。
- ・迅速な対応をしてくれたか。
- ・見積もり来訪時、身だしなみはきちんとしていたか。
- ・会社の制服があるか。
- ・パンフレットやチラシに仕事の流れが書いてあるか。
- ・見積書や名刺に許可番号や所在地などを明記しているか。
- ・見積書では料金項目が詳細に記されているか。
- ・会社名義の銀行口座を保有しているか。
- ・見積もり来訪で、不安をすべて解消してくれたか。

4. 「幸せな死のために一刻も早くあなたにお伝えしたいこと」 中山祐次郎著 幻冬舎新書

2015年3月25日

副題：「若き外科医が見つめた“いのち”の現場 365 日」

帯の言葉：「死は怖い。悲しい。でも目を背けないでください。」

この本の著者の中山氏は、34歳で、まだ駆け出しの外科医である。しかしこの本から学ぶところは多い。中山氏はこの本を書くに至った理由を、「混乱のなか、死の恐怖に打ち勝てずに切ない最期をお迎えになる患者さんをたくさん目にし、一介の若手医師の私ではありますが、“なんとかしたい”と思ったからです。まず“自分がいつかこの世を去る”という、とても辛いこの真実を知っていただきたい。それを知ること、そしてこの本がきっかけになって、少しでも安らかに旅立つ人が増えてくれればと思い、手術の合間をぬってキーボードに私の思いを叩きつけました。幸せに死ぬ。満足し微笑んで、旅立つ。変な表現かもしれませんが、この本でお伝えしたいのはこんなことです」と書いている。

私がこの本から学んだことは、「死に方・死生観の多様性」です。中山氏は、「さんざん悩んだあげく、今、私はこう考えます。医学の目的とは、“いのちを延ばす”ことではなく、“人を幸せにする”ことである」と言い、死に方は「あなたの好みです。途中で変わったっていいんです。大げさに言えば、これが価値観であり、死生観なのかもしれません。幸せのかたちは人それぞれです。ですから、医者の仕事はこんなふうであるべきです。長生きした方が幸せだと思う人には長生きの手助けをする。辛い治療が待っていてもしんどい副作用があっても長生きしたいという人には、立ち向かって手助けをする。苦しかったり、痛い治療は嫌だよという人には、“無治療という選択肢もある”ことをお伝えする。臓器を困っている人にあげたいよという人にはそうする。痛みだけは本当に嫌、多少眠くなってもいいから痛み止めの麻薬をたくさん使って欲しいという人には、たくさん使う。最期の時を家で迎えたい人には、家で迎えられるように整える」と書いている。私はこの中山氏の考えに賛同する。

中山氏は、「死って、なんだろう？」と問いを發し、「あなたのお好みのスタイルがあったら、ぜひ参考にしてほしい」として、以下のようなことを書いている。

- ・村上春樹氏は、著書「ノルウェイの森」で死について、「死は生の対極としてではなく、その一部として存在している」。
- ・きんさんぎんさんの、「ぎんさんは、死を遠ざけるものでもなく、恐れるも

のでもなく、拒否するものでもなく、しっかりと死をみつめたうえで、受け止めたうえで、笑い飛ばしているんですね」。

- ・フィリピンのマノボ族は、死んでも、いつもと同じ日常が続くと考えそうです。ただ死の国に「駒を進める」だけ。
- ・100 パーセント自分で選んだことだから、死さえも怖くないほど充実しているのでしょう。
- ・自分の運命に、死に、毅然と立ち向かえる人は、本当に「自由」なのだと思います。

最後に中山氏は、「ひとりで死ぬのはやっぱり寂しい」という見出しで、「たったひとりで迎える最期がいかに哀しいものか、不幸せなものか、私は身をもって実感しています。最近は孤独死も社会問題となっていますが、お見舞いも客も来ないような患者さんは増えてきています。そんな患者さんのお部屋には、私やスタッフが訪れる回数が自然と増えるのですが、それでもやはり寂しいものだと思います」と書いている。この中山氏の主張には、同意しかねる。従来から私は、海外ビジネスで成功するには「孤独をこよなく愛す」ことが重要だと説いてきたし、それを実践してきた。私は「ひとりで死ぬのは寂しくない」と声を大にして叫びたい。この読後雑感を書いていたとき、偶然、新聞の書籍広告欄に、「寂しさの力」という題名の本をみつけたので、さっそく購入し読んでみた。

5. 「寂しさの力」 中森明夫著 新潮新書 2015年3月20日

帯の言葉：「ディズニー、ジョブズ、坂本龍馬、山口百恵、酒井法子、中島みゆき……成功は寂しさから生まれる」

著者の中森氏は「まえがき」で、「人間のもっとも強い力は何だろう。さみしさの力だ」、「誰もが一人で生まれて、一人

で死んでゆくしかない。生きるとは、さみしさを受け入れることです」、「人間の本質は、さみしさであって、そこに本質的なパワーが宿っているはずです」、「さみしくても大丈夫ーではない。さみしいから、大丈夫。さみしかったら、チャンス！です。あなたはすごい力を持っている。さみしさの力ーその無限の可能性を秘めたパワーに満たされているのだから」と書いている。この中森氏の逆転の発想を、私は無条件で肯定するし、なにより好きだ。

ただしこの本は、「寂しさの力」を論理的に追及したものではない。ディズニー、ジョブズ、坂本龍馬、山口百恵、酒井法子、中島みゆき……らの不遇の幼年期を並べ、彼らはそれをバネにして成功へと至ったと書いているだけ

である。「寂しさの力にパワーが宿る」を立証するには、サンプル数が少なすぎる。

中森氏はまた、「そういえば、深沢七郎が“おいらはさびしいんだ日記”という一文を書いていました。“おいらが気持ちがいいことは、ちょっと、まあ、淋しいような時だ。淋しい時はオカンクなんていいねえ、銀座の千疋屋のパッション・シャーベットの様な味がするんだ。淋しいって痛快なんだ”。さみしさがシャーベットの味、痛快だ、なんて！ さすが“檜山節考”の作家だと言うべきでしょうね。さみしさをポジティブに捉えるこんな哲学を“サシミズム”、その実践者を“サシミスト”と名付けたいと思いました」と書いている。ここにも「檜山節考」が登場してくる。やはり「新・檜山節考」が期待されている証左ではないだろうか。

6. 「家族という病」 下重暁子著 幻冬舎新書 2015年3月25日

帯の言葉 : 「「家族はすばらしい」は欺瞞である。これまで神聖化されてきた“家族”を斬る」

本書で下重暁子氏は、「家族はすばらしい」という現代の常識を、「欺瞞である」と言い切っている。私はこのような「家族」概念やモラルについての大胆な提言こそが、これからの超高齢社会にもっとも必要だと思う。このような主張が多くなり、社会の主流を形成し、「既成のモラル」を突き崩せば、そこに超高齢社会の突破口が開けてくると、私は思う。

下重氏は老人の孤独死について、「今一度、家族とは何かを考えてみる時期に来ている。都会で独居してそのまま亡くなるケースを人々は悲惨だというが、はたしてそうだろうか。本人は一人暮らしを存分に楽しみ、自由に生きていたかもしれない。誰にも気付かれず、ひっそりこの世を去ることが希望だったかもしれない。後始末で迷惑をかける部分もあるが、本人が満足ならばそれでいい。一人で死ぬのは、覚悟の上だろう。少しずつ食物を減らして水だけにし、最後にはそれもとらずに亡くなるという死に方を選ぶ人もいる。野垂れ死にといわれようと、覚悟の上ならいいのではないか。心ない家族にみとられるよりは満ち足りているかもしれない」と書いている。私も同感である。

さらに下重氏は、「国は、家族を礼賛する。戦時中がそうであったように、家族ごとにまとまっていてくれると治めやすい。地方創生というかけ声はとりもなおさず、管理しやすい家族を各地につくるということに他ならない。その意味で、家族とは小型の国家なのである。そうだとすると、小型の国家

たる家族は排他的にならざるを得ないのかもしれない。国家が自分の国を守るために他の国と戦いを交えるように、家族もまた、輪の中の平和と安泰をはかるためには排他的になり、自分だけよければという行動になる」と書いている。下重氏は、「現代社会では、家族が統治機構の一端に組み込まれている」と主張しているのである。これにも私は同意する。

最後に下重氏は、「人間しょせん生まれるときも一人、死ぬときも一人なのだ。一人がいちばん満ち足りているということもある」、「つれあいという家族がいなくなったら……私はそのための、一人でいることに馴れようと準備を始めています。私がこの世に生を得て、長い長い道を一人歩いてきた時のように、最後は一人なのだと自分に言いきかせているのです」と、その覚悟を書いている。

以上

上海街角インタビュー ⑦⑤

社団法人大阪能率協会アジア・中国事業支援室副室長（海外委員）

順利包装集团董事长（在上海）

福喜多技術士事務所所長

福喜多俊夫

「上海では女性の方が強い」って本当ですか？

3月9日付の人民網に中国家庭調査「妻の方が夫より家のお金を多く使う」が6割。という記事が出ていた。私は上海に来て以来、「上海では女性の方が強い」、「上海で結婚するためには男性は3大要件（アパートをもっていること、家事が出来ること、収入が女性より多いこと）をクリアしなければならないと聞かされていた。当社の女性スタッフも家事が不得手と公言する人が多かった。

さて、上海の男女の意見はどうなのだろうか？

1. 20歳代後半の女性

自分で言うのもおかしいけれど、上海では一般に女性の方が強いと思います。また、上海の女性は我儘です。上海の男性はこれに慣らされているから、こんなものだと思っているでしょう。私は家事が出来るけれど、勤めているので家を出るのも帰るのも主人と殆ど同じです。だから我家では家事は分担しています。早く帰ってきた方が夕食の支度をします。普段の生活では小さいことは私

が決めます。主人はやさしいのでいつも私に譲ってくれます。でも、大事なことは相談して彼に従います。私は上海の男性はやさしいけれど芯があると思います。

2. 30 歳代前半の女性

上海の女性を強くしているのは、本人より両親です。両親は娘が結婚するとき、相手が自分のアパートを持っているかどうかを重視します。それと、上海に限らず、中国南部の男性は家事をすることを気にしません。あたりまえのようにやります。私の父も料理が上手です。そして、家庭内での女性の地位は高いです。家庭内の主導権を女性が持っているのが一般的です。だから中国北部の女性は南部の男性と結婚するのを希望します。我家は民主的です。いつも相談して決めています。

3. 40 歳代前半の男性

確かに上海の女性は要求が多いです。親も一緒になって結婚相手に要求します。いちばん最初に聞くのが、「家を買いましたか？」です。親の家に同居は問題外です。

これらのことは教育に繋がる話です。親から子へと理想的な家庭についての思いが受け継がれていないからです。でも、上海の女性を一方向的に責めるのは不公平です。上海の男性が頼りないから女性は不安感を持ち、結婚にあたって物質的な保証を求めるのでしょうか。う～ん、うちの娘は高校生ですが、私も結婚相手にはいろいろ条件をつけるでしょうね。

4. 40 歳代中頃の女性

一般に上海では女性の方が強いようですが、これも教育レベルによって違うでしょうね。教育レベルの高い女性は社会性も高いから自分の意見を持っており、一見強そうに見えますが、実際は何事も相談して決めていると思います。そして、男は女性を立てて女性が決めたように振る舞ってくれます。しかし、一般には女性はすべてを自分で決めたいと思っているでしょう。我家ですか、うちの主人はなかなか強く譲りません。

5. 50 歳代前半の男性

家内は「自分の家を持っているか」という条件以外は問題にしませんでした。家事は全部やってくれますし、家の中のことも私が決めています。ただ、最近

は娘が「上海の女性」らしさが出てきて、自分の意見を主張し、しばしば押し切られます。

6. 40 歳代中頃の女性

我家は基本的には私が仕切っていますが、大きな買い物は主人に決定を委ねます。主人の仕事について私は一切口を出しません。主人は外で働き、私は家の中を守るというのが暗黙の了解です。家も車もあります。今の生活に不満はありません。娘に十分な教育を与え、豊かな情操をもった子に育てるのが私達夫婦の仕事です。

7. 20 歳代前半の女性

我家と親戚を見れば圧倒的に女性が強いです。祖父母はおばあちゃんの方が強いです。すべて仕切っています。両親はそれぞれ事業をやっているのですが、どちらも頑固だけど母の方がやや強いです。全体を見れば我が家はおばあちゃんを中心です。親戚はどこも女性が強いです。

8. 40 歳代中頃の男性

私の家内は湖南省出身ですが、「自分の家」にはこだわりました。家内の両親に結婚の承認を貰うときも「家はありますか？」と念を押されました。今は上海と広州にアパートを持っています。子どもの夏休みには家内の計画に従いますが、普段の家事は家内が殆どやってくれます。私は仕事に専念です。

9. 50 歳代前半の男性

一般的に言えば、都市部では女性の方に発言権があり、財布も握っているケースが多いです。我が家でも私がたまに提案しても（例えば新しいテレビに買い替えよう）「無駄遣い」といって却下されることが多いです。ただ、一般の日用品の買い物や同級生との会食などはお互い自由にやっています。まあ、大きく使わないという暗黙の了解が出来ています。家事はお互い手の空いているほうがやることになっており、完全に平等です。

共青团広州市委員会などの組織による共同調査「広州地区独身青年層結婚恋愛調査報告」によれば、「裸婚」と呼ばれる「車もない、家もない、貯金もない」様な結婚を「受け入れられる」人は 22.4%に過ぎず、「受け入れられない」が 32.1%、「状況を見て判断する」が 45.5%だった。また、「結婚する男性はどの

経済条件を備えているべきか」という複数選択では、9割近くの女性が男性はまず「安定した収入」(87.73%)を持っていないと考えていることがわかった。また、「一定の貯蓄」(69.25%)や「家」(59.24%)を男性に求めている女性が多いこともわかった。(人民網 3月19日付)

求人サイト「前程無憂」の調査によれば、中国における女性の就業率は61%。だが、「夫の収入の方が妻より多い」家庭が7割を占めることが判明した。しかし、沢山稼ぐ人が、必ずしもたくさん使うとは限らない。調査によると、「妻の方が夫より家のお金を多く使っている」家庭は60.8%に達した。また、「財布の紐は妻が握っている」家庭は59.5%、さらには、「マイホーム購入」や「投資」など、重大な消費についても「妻が主導権を握っている」家庭は29.3%を占めた。(人民網 3月9日付)

以上

あるエンジニアの客死

京都大学経営管理大学院・大学院経済学研究科准教授
曳野孝

3月21日付でIHI(旧名;石川島播磨重工業)のホームページに「トルコ・イズミット湾横断橋建設工事における主ケーブル架設用足場の落下事故について」という短い「お知らせ」が掲載された。その内容は以下のようなシンプルとも思える変事に関してである。

「本年3月21日(土、現地時間)、当社関係会社の(株)IHIインフラシステム(以下、IIS)が施工を手掛けている「トルコ・イズミット湾横断橋建設工事」にて、主塔間に架設していた「キャットウォーク(以下、CW)」(=主ケーブル架設用の足場)の南側主塔上のロッド基部(=CW端部を主塔に連結する部分)が破断し、CWが海面上に落下しました。」

日本のマスメディアでは全くと言っていいほど無視されたこの事故が、トルコ現地では頻繁に取り上げられる大きなニュースとなった。私が経済学研究科から付与されたサバティカル期間の最初の滞在地として選んだイスタンブールに着いた3月末、新聞紙面では依然この話題が大きく報道されており、何人もの現地の友人に日本での反響を尋ねられた。この両国での極端な温度差はいったい何なのか。

それは、必ずしもこの横断橋がトルコの経済発展にとって高い重要性を持つこととは関係しない。確かに、IHIが伊藤忠商事と共同でこの工事を受注した

2011 年の同社のアナウンスメントは「トルコの人々のさらなる発展と友好関係を祈りつつ」と題され、次のような誇らしげな文章が読める。

「トルコで建設中のイズミット湾横断橋は世界第 4 位の長大吊橋となる。この橋の完成はトルコ最大の都市イスタンブールとマルマラ海の南に広がる都市との時間的な距離を縮め、新たな企業誘致ばかりでなく、物流の変化や通勤・通学、観光まで周辺各地の人々の生活に大きな恩恵をもたらすであろう。」「この橋の完成がトルコのさらなる発展と日本の友好関係を深める架け橋となるに違いない。」

この事故に関する IHI の「お知らせ」は次のような儀礼的な表現で結ばれている。

「このたびは現地トルコの方々をはじめ、多くの関係者の皆様に多大なご心配・ご迷惑をおかけすることとなり、誠に申し訳ございません。

なお、当日は荒天のため建設作業を中止しており、今回の CW 落下に伴う人的な被害は発生しませんでした。」

確かに、「CW 落下に伴う人的な被害は」直接はなかった。この文章からは、事故の状況のなかで IHI の社員である技術者の命が失われ、しかもそれが自死によるものであったという事実は読み取れない。しかし、トルコ側から見れば、工事の担当者の一人である岸竜一氏という 50 代のエンジニアが全責任を取って自ら命を絶つという思いもかけない行動が重要であり、この惨事こそがトルコ社会に強いショックを与えることになった。

岸氏の遺体は、事故の 2 日後、手首と喉を切った状態で、現地の社員宿舎に近い共同墓地の入り口で通りがかりの生徒によって発見され、日本語の遺書もそばに残されていた。「この失敗によって、私の個人としての、そしてプロフェッショナルとしての人生は終わった。このプロジェクトは、私と私の国である日本の誇りだった。私はこの失敗の責を一身に背負う」という意味の内容が綴られていた。

現地の統括責任者でもない岸氏が、なぜここまでこの架橋プロジェクトに自らを心理的に一体化させてしまったのかは依然不明のままである。特に事故後の調査では、ロード基部が破断した起因は現地調達したパーツの欠陥にあるという報道もなされている。いかなる意味でも、この事故は同氏の責任の範囲を超えたものとはしか判断できない。なぜ同氏は事故の責任をここまで厳しく、し

かも急迫したものとして受け止め、自己責任の重圧に押しつぶされなければならなかったのかは想像もつかない。

にもかかわらず、トルコ社会は、この事態に直面して、職務に対する責務を真摯に受け止めた日本人の英雄の悲劇という受け止め方をした。日本ではサムライ精神が今も厳然として生きており、自らと自らが属する集団としての会社と国のために「ハラキリ」をすることによって名誉を守ったと解釈されたのである。やがて連絡橋が完成した暁には岸氏の立像を建てようとか、そもそも橋の名称を同氏にちなんだものにしようというようなアイデアが頻出するのも、その意味では驚くことではないのかもしれない。

このトルコ側の反応は、穿った見方をすれば、ともすればエンジニアを含めたプロフェッショナルのような社会的エリートに職責意識が欠如しがちであり、一般的な尊敬を受けていない社会における失望感の歪曲した表出かもしれない。もっとも、エリートが自らの失態を隠蔽し、責任を回避して、立場に居座るという行動は、日本社会においてもごく普通に観察されることである。しかし、同じアジアでも地理的に西端に位置して、物理的だけでなく、心理的な距離が離れてしまっているトルコから眺めれば、今回の岸氏の自死に対する社会的反応から理解できるように、「日本人」は立派な行動規範を持つ、より志操の正しい人々と理想化、偶像化されてしまうのであろう。

一方、日本社会では、皮肉なことに、自らの命を懸けてまでその名誉を守ろうとした岸氏というエンジニアについて、その存在さえ気づく人はいない。IHIのこの事故に対する「お知らせ」から見ると、同社が岸氏の行動に謝恩の念をもって接しているとは思えない。正直なところ、仕事のストレスによる社員の自殺という、会社にとっては表には出すことを躊躇する事柄として扱われてしまうのであろう。いくら愛国心、愛社心に発したものであるにせよ、有難迷惑というのが当事者の偽らない感想であるとも考えられうる。

「トルコのさらなる発展と日本の友好関係を深める架け橋」は、予定通り工事が進めば、一年後の来年春にも完成する。しかし、その「友好関係」は、このような一方の個人的心情と他方の社会的誤想によるものではなく、より積極的な内実を根拠とした相互理解にもとづくものになってほしい。それが謂われなく客死を遂げた岸氏へのせめてもの供養であると思う。

以上

【中国経済最新統計】

	① 実 質 GDP 増加率 (%)	② 工 業 付 加 価 値 増加率 (%)	③ 消費財 小売総 額増加 率(%)	④ 消費者 物価指 数上昇 率(%)	⑤ 都市固 定資産 投資増 加 率 (%)	⑥ 貿易収 支 (億ドル)	⑦ 輸 出 増加率 (%)	⑧ 輸 入 増加率 (%)	⑨ 外国直 接投資 件数の 増加率 (%)	⑩ 外国直 接投資 金額増 加率 (%)	⑪ 貨幣供 給量増 加 率 M2(%)	⑫ 人民元 貸出残 高増加 率(%)
2005年	10.4		12.9	1.8	27.2	1020	28.4	17.6	0.8	▲0.5	17.6	9.3
2006年	11.6		13.7	1.5	24.3	1775	27.2	19.9	▲5.7	4.5	15.7	15.7
2007年	13.0	18.5	16.8	4.8	25.8	2618	25.7	20.8	▲8.7	18.7	16.7	16.1
2008年	9.0	12.9	21.6	5.9	26.1	2955	17.2	18.5	▲27.4	23.6	17.8	15.9
2009年	9.1	11.0	15.5	▲0.7	31.0	1961	▲15.9	▲11.3	▲14.9	▲16.9	27.6	31.7
2010年	10.3	15.7	18.4	3.3	24.5	1831	31.3	38.7	16.9	17.4	19.7	19.8
2011年	9.2	13.9	17.1	5.4	24.0	1549	20.3	24.9	1.1	9.7	13.6	14.3
2012年	7.7	10.0	14.3	2.7	20.7	2303	7.9	4.3	▲10.1	▲3.7	13.8	15.0
2013年	7.7	9.7	11.4	2.6								14.1
1月				2.0	20.8	291	25.0	29.0	-12.4	-3.4	15.9	15.4
2月				3.2		153	21.7	-14.9	-35.6	6.3	15.2	15.1
3月	7.7	8.9	12.6	2.1	21.5	-9	10.0	14.2	-19.7	5.7	15.7	14.9
4月		9.3	12.8	2.4	19.8	182	14.6	16.6	13.9	0.4	16.1	14.9
5月		9.2	12.9	2.1	19.7	204	0.9	-0.1	-14.4	0.3	15.8	14.5
6月	7.5	8.9	13.3	2.7	19.9	271	-3.3	-0.9	-17.3	20.1	14.0	14.1
7月		9.7	13.2	2.7	20.2	178	5.1	10.8	1.2	24.1	14.5	14.3
8月		10.4	13.4	2.6	21.4	285	7.1	7.1	-11.7	0.6	14.7	14.1
9月	7.8	10.2	13.3	3.1	19.6	152	-0.4	7.4	-16.8	4.9	14.2	14.3
10月		10.3	13.3	3.2	19.2	311	5.6	7.5	-8.2	1.2	14.3	14.1
11月		10.0	13.7	3.0	17.6	338	12.7	5.4	-9.3	2.3	14.2	14.2
12月	7.7	9.7	13.6	2.5	17.2	256	4.3	8.6	-3.4	-42.6	13.6	14.1
2014年												
1月				2.5	19.8	319	10.5	10.8	-8.6	-4.5	13.2	14.3
2月				2.0		-230	-18.1	10.4	1.3	4.0	13.3	14.2
3月	7.4	8.8	12.2	2.4	17.3	77	-6.6	-11.3	6.1	-1.5	12.1	13.9
4月		8.7	11.9	1.8	16.6	185	0.8	0.7	0.5	3.4	13.2	13.7
5月		8.8	12.5	2.5	16.9	359	7.0	-1.7	8.4	-6.6	13.4	13.9
6月	7.5	9.2	12.4	2.3	17.9	316	7.2	5.5	10.3	0.2	14.7	14.0
7月		9.0	12.2	2.3	15.6	473	14.5	-1.5	14.0	-17.0	13.5	13.4
8月		6.9	11.9	2.0	13.3	498	9.4	-2.1	5.2	-14.0	12.8	13.3
9月	7.3	8.0	11.6	1.6	11.5	310	15.1	7.2	9.4	1.9	11.6	13.2
10月		7.7	11.5	1.6	13.9	454	11.6	4.6	8.7	1.3	12.1	13.2
11月		7.2	11.7	1.4	13.4	545	4.7	-6.7	-8.6	22.2	12.0	13.4
12月	7.3	7.9	11.9	1.5	12.6	496	9.5	-2.3	6.1	10.3	11.0	13.6
2015年												
1月				0.8		600	-3.3	-20.0	2.2	-1.1	10.6	14.3
2月				1.4		606	48.3	-20.8	49.8	0.1	11.1	14.7

注：1. ①「実質 GDP 増加率」は前年同期（四半期）比、その他の増加率はいずれも前年同月比である。
2. 中国では、旧正月休みは年によって月が変わるため、1月と2月の前年同月比は比較できない場合があるので注意されたい。また、（ ）内の数字は1月から当該月までの合計の前年同期に対する増加率を示している。
3. ③「消費財小売総額」は中国における「社会消費財小売総額」、④「消費者物価指数」は「住民消費価格指数」に対応している。⑤「都市固定資産投資」は全国総投資額の86%（2007年）を占めている。⑥—⑧はいずれもモノの貿易である。⑨と⑩は実施ベースである。

出所：①—⑤は国家统计局統計、⑥⑦⑧は海関統計、⑨⑩は商務部統計、⑪⑫は中国人民銀行統計による。